

世界自然遺産登録 20 周年 記念シンポジウム  
～知床世界自然遺産と地域のこれから～



**2026 年 2 月 28 日 [Sat]**

I 部 10:30 ～ 12:00

II 部 13:00 ～ 16:30



▲ 申し込みは  
こちら

**場所**

北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎） 2 階 赤れんがホール A  
札幌市中央区北 3 条西 6 丁目 1 番地

**参加費**

無料

**実施形式**

現地参加（先着 50 名）、またはオンライン（Zoom Webinars）

**申し込み**

**要 事前申し込み**

※どなたでもご参加いただけます。上記の QR コードよりお申し込みください。

**お問合せ**

0152-26-7665（公益財団法人 知床財団）

主催：公益財団法人 知床財団

共催：知床国立公園 60 周年・世界遺産 20 周年記念事業実行委員会（環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道・斜里町・羅臼町）

後援：知床世界自然遺産地域 科学委員会・知床世界自然遺産 地域連絡会議

## 開催概要

知床は 2005 年、日本で 3 か所目の世界自然遺産に登録されました。以来、科学的知見と地域参画を両立させた「知床方式」による保全管理は、全国のモデルとして定着しています。登録から 20 年を迎える今、人口減少や環境変化など新たな課題の中で、自然と地域社会の関わりが改めて問われています。本シンポジウムでは、斜里町で昨年 11 月に開催した「知床シンポジウム」の成果をふまえ、知床で観光や漁業など地域のくらしに深く関わる立場から発表いただくとともに、知床にご助言いただいている科学委員会からの報告を受け、知床の自然が地域にもたらす価値や今後のあり方についてガバナンスの視点から考えます。

## プログラム

I 部	10:30 ↓ 10:40	<b>開会挨拶</b> 加納 孝之 [北海道副知事]
	10:40 ↓ 11:40	<b>基調講演</b> 世界遺産地域のガバナンス：現状と課題、未来の展望 田中俊徳
	11:40 ↓ 12:00	<b>地域からの報告</b> 世界遺産 20 年のあゆみ 渡邊 雄児
	13:00 ↓ 14:00	知床観光の 20 年 河井 謙 地域産業としての漁業とその変化 太田 大輔 記者からみた知床の 20 年 石原 健治
II 部		<b>科学委員会からの報告</b> ヒグマワーキンググループ 佐藤 喜和 エゾシカワーキンググループ 石川 幸男 14:15 ↓ 15:30 河川工作物アドバイザー 会議 中村 太士 海域ワーキンググループ 松田 裕之 適正利用・エコツーリズム ワーキンググループ 愛甲 哲也
	15:40 ↓ 16:20	<b>トークステージ</b> 知床世界遺産地域のガバナンスと地域のこれから 田中 俊徳・中村 太士・愛甲 哲也 進行：村田 良介
	16:20 ↓ 16:30	<b>閉会挨拶</b> 小林 重善 [林野庁 北海道森林管理局 計画保全部長]

## 登壇者プロフィール



田中 俊徳 氏 [九州大学 准教授]

2011 年、京都大学で博士号を取得。専門は環境政策・ガバナンス論。北海道大学特任助教、東京大学准教授等を経て、2021 年より現職。近著に「オーバーツーリズム解決論」、「エコツーリズムの文化学」(編著)。



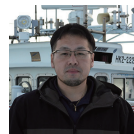
渡邊 雄児 氏 [環境省釧路自然環境事務所 国立公園企画官]

沖縄から北海道まで全国の国立公園等を歩き歩く自然保護官(通称レンジャー)。2019 年から 3 年間ウトロ自然保護官事務所では知床世界自然遺産の管理等に従事。2025 年 7 月から現職。北海道 4 回目。



河井 謙 氏 [一般社団法人知床しゃり 専務理事]

大学時代に知床に通い、そのまま斜里町役場に就職。3 年半は自然環境、15 年は商工観光を担当。知床の魅力を活かした地域づくりに貢献するべく、2024 年に役場を中途退職し、行政と民間の中間的な同法人に移籍。



太田 大輔 氏 [羅臼漁業協同組合 青年部部长]

羅臼町で中学まで生活し、小樽水産高校卒業後、羅臼に帰郷しホタテ漁師の家に従事。2013 年にホタテ青年会会長、2019 年に羅臼漁協青年部部长に就任。現在、根室地区漁協青年部連絡協議会会長を兼任。



石原 健治 氏 [読売新聞北海道支社根室通信部 新聞記者]

樺太 2 世。記者として茨城、環境庁記者クラブ、長野などを経て、2004 年から、知床世界自然遺産登録取材。その後、尾瀬、佐渡島などを巡り、2017 年から再び根室に赴任し、知床通い。



佐藤 喜和 氏 [酪農学園大学 教授]

博士(農学)。ヒグマの生態と管理に関する研究が専門。知床世界自然遺産地域科学委員会・委員、ヒグマワーキンググループ座長。著書に「アーバン・ベア」ほか。



石川 幸男 氏 [弘前大学 名誉教授]

1956 年東京生まれ、大学院進学を機に道民となる。道内の短大で天然林研究を行いながら、知床等の植物調査に関わってきた。2011 年から弘前大に在職し、退職後に道民復帰。エゾシカワーキンググループ座長。



中村 太士 氏 [北海道大学 名誉教授]

1958 年愛知県名古屋生まれ。北海道大学名誉教授。生態系間の相互作用、自然再生、グリーンインフラ、気候変動適応等の研究を進めている。知床世界自然遺産地域科学委員会委員長。



松田 裕之 氏 [横浜国立大学 上席特別教授]

京都大学理学部卒業、京都大学理学博士。中央水産研究所主任研究官、東京大学海洋研究所助教授などを経て、現職。日本生態学会元会長、アースウォッチ・ジャパン理事長。海域ワーキンググループ座長代理。



愛甲 哲也 氏 [北海道大学大学院 農学研究院 教授]

専門は造園学。国立公園の適正利用、利用者モニタリングの研究にとり組む。知床世界自然遺産科学委員会委員、適正利用・エコツーリズムワーキンググループ座長。



村田 良介 氏 [公益財団法人 知床財団 理事長]

知床博物館学芸員、斜里町環境保全課長、教育長などを経て現職。環境保全課長時代には知床の世界遺産登録を担当。知床の海と沢と山をこよなく愛す。